

5. 主な行事 / 金曜日 礼拝 / 月ごとに 誕生会 / 各避難訓練

一学期	二学期	三学期	
入園式	新入児二者面談	遠足	保育参加 学校見学
親子遠足	運動会	積木ワークショップ	
植物栽培/タッキング	さつまいも堀遠足	もてなしタッキング	
木工	クッキング	観劇会(劇団風の子)	
保育参観	消防署訪問	ひなまつり会	
プール	こどもまつり	親子給食会食会	
日帰りキャンプ	クリスマス会	歩く会	
個人面談	親子陶芸(子育て支援事業)	卒園・終了式	

6. その他の活動

水戸市合同説明会——見川総合体育館

入園説明会 9月21日(土) 限定動画配信

にじいろチャイルドの会 園児観察1回・保育者講座3回

保護者対象3回 (茨城大学大学院 金丸隆太先生)

おはなしはらっぱ 年長児対象 実施回数1回 (茨城キリスト教大学 原口なおみ先生)

未就園児親子くらぶ (つくしっこくらぶ) 実施回数6回

子育て相談 8月 3月以外毎月 実施回数8回

園庭開放 (木もれびの庭) 6回

4月、5月の登園自粛期間中は、郵便を出したり YouTube 配信をおこなった。

ホームページ月ごとに更新/グループや年齢の担任よりメッセージと写真を掲載

教育実習生受け入れ 2人 (茨城キリスト教大学児童教育学科)

7. 2020年度の主な環境に関わる支出経費

ちょうG・ことりG側のテラスのクッションを貼り換え

園庭剪定費用・桜の手入れ 砂場用砂 森の木関車の滑り台、サッカーゴール、

年中用食器を新調

8. 今年度の保育評価

満3歳児から5歳児までの混合クラスが4クラス。2020年度はコロナの世界初年度の一年であり、感染症の拡大という未知な体験を手探りで進む教育機関としては苦しい一年であった。それと同時に職員の結婚や出産が重なり、コロナ下で安定的に働けるか。また代わりの働き手の交替がうまく行えるか。園としては見据える課題が多岐にわたる一年であった。

コロナへの対応の仕方はニュースや市町村の対応例を耳にする数が増えていくことで、管理者も考えがまとまっていく体験をしていった。日々の遊具の消毒という作業や、消毒液やマスクの仕入れなど気にする仕事が増えたこと。そんな中であって子どもたちの心身の安定には普段通りの生活がなによりという思想の基、遊び方の制限はしないで、感染者も出さず生活できたことは恵みとしかいえない。子どもたちは命に係わる大事なことはきちんと理解できる存在であり、協力者であった。クラスはその意味で連帯感があり、育っていった。

保育者は中途退職や労災での休業を余儀なくされた方もおり、家族や自身の体調に変化がある方もおり、一つ一つをどうにか今できる方法を模索しながら進んでいった。働き手の不安がお子さんたちに影響しにくかったことは、ひとり一人の保育観の表れでもあり、感謝であった。非常勤職員に年次有給休暇の取得がすすんだ。

主任を担っていた職員が退職することを見据えて、仕事の理解や引継ぎ、主任を置かない状況で誰がどういう役割を担っていくか模索があった。次年度までにという目安があったが、なかなか形にはしにくかった。園長が前面に出て指揮を執る形を薄くしていく必要は依然感じているところである。預かり保育の新2号の設定他、補助金やアンケートなど事務は依然複雑で手ごわい。市町村や県への報告事項もやはり増加。

食物アレルギーでの対応は、引き続き個別対応を徹底した。偏食対応まで行えたことはプラス。報酬面では、賃金改善手当2を引き続き取り入れる。

園児募集はつくしっこくらぶに集まる方がメインとなる。満3歳児は大方募集人数が集まる。3歳児は25名募集中19名であったので、2021年度在籍数は減少となる。